

令和元年度 山武市立成東東中学校「学校評価」結果の考察

1 はじめに

(1) 実施内容

- ①教職員の「自己評価」・「生徒アンケート」・「保護者アンケート」の3種類を実施した。
- ②質問事項を三者同一とし、比較できるようにした。
- ③質問事項の文言については、それぞれの立場に応じたものとした。
- ④教職員の「自己評価」のみ「特別支援」に関する質問項目を設けた。
- ⑤質問事項を精選し、マークシート方式とした。
- ⑥評価の実施は2回。時期は昨年度と同様に1、2学期末とした。
- ⑦三者（教職員・生徒・保護者）とも肯定率が80%未満の項目を今後の課題とする。
- ⑧昨年度から、質問事項の中に「いじめ防止」に関する設問を加えている。

(2) 生徒・保護者アンケートの協力率（%）〈12月実施〉

対象	全体	1学年	2学年	3学年
生徒	95.7%	94.4%	97.7%	95.2%
保護者	93.1%	87.7%	97.7%	94.0%

2 考察

(1) 生徒・保護者アンケートの協力率について

- 生徒の協力率が100%に満たないのは調査当日の欠席者の数による。
- 保護者アンケートは生徒を通じて配付・回収している。回収については「保護者宛て文書」や「学校だより」により協力依頼をするとともに、学級担任から生徒へ声かけを行った。その結果、多くの保護者から協力を得ることができた。しかしながら、回収方法の改善や無記名の要望などの意見もあり、次年度に反映させていきたい。今後も保護者との良好な関係を築き、引き続き連携・協力していくことが大切である。

(2) 全体的な傾向について

- 生徒・保護者の肯定率について、多くの項目において80%を上回る状況である。学校生活全体を通して、肯定的な要素が多いことがうかがわれる。
- 特に、学校満足度については、生徒が91%、保護者が90%と高い肯定率であったが、これに甘んずることなく、改善を続けたい。
- 大分類「学校経営・学校運営」「生徒指導」「学習指導」「学校行事」「部活動」の5項目のうち、80%を下回ったのは、「学習指導」の保護者のみであった。
- 大分類「学習指導」において、小項目の「わかりやすい授業」の保護者の肯定率70%、「基礎・基本の定着」の保護者の肯定率66%及び教職員の肯定率52%が全体の数値の中でも極端に低く、本校の課題である。

(3) 学校評価アンケートから読み取れる本校の課題

例年のアンケート結果からも、成東東中学校の課題は「学力向上」であることは否めない。毎年、職員研修のテーマにしたり、学力向上委員会で議題にしたりしながら、全職員が授業改善を含め、学力向上に取り組んでいるものの、成果が表れていない現状がある。

アンケート結果で注目したいのは、生徒の「学習指導」に対する数値である。

「基礎・基本の定着」の項目で、「自分は基礎学力が身についていると思う」の設問に対して、80%の生徒が肯定的な回答をしている。この項目の保護者の数値は66%、教職員は52%である。生徒の学習意欲を如何に「学力向上」につなげていくか、土台である生徒の意識改革、やる気をどのように育んでいくべきかについて全職員の共通認識のもと進めていく必要がある。

なお、部活動や学校行事など学校生活全般（いじめ防止対策も含む）における三者（教職員・生徒・保護者）の回答は、80%を超える肯定率である。これは、職員が信頼される学校づくりに向けて、日々着実に取り組んでいることが評価されたと考えられる。この状況に甘んじることなく、学校教育目標の実現に向けて、引き続き生徒が安心して安全に活動ができる学校、保護者や地域の方々に信頼される学校をめざし、日々実践を続けることが責務であると考えます。

(4) 学力向上に向けての手立て 「学ぶ楽しさ⇒達成感・自信（自己肯定感）へ」

- 補習授業を全学年で実施～G A Aの先生方の計画的な活用（時期・内容など）
- きめ細かな指導を徹底するために、少人数指導の工夫やT T指導での習熟度別指導の充実を図る。
- 保護者との連携～効果的な家庭学習のあり方、習慣化をめざす
- 学習委員会の取り組み～学力向上プログラムを企画
- 生徒個々の学力や実態を考慮した「個に応じた指導（指導の個別化・学習の個性化）」を図る。
- ドリルによる繰り返し学習を積極的に取り入れる。（各教科授業内でも）
- 単元テストによる形成評価とフィードバックの積み重ねによって、「基礎学力の定着」を図る。～振り返り学習の定着
- I C T機器を積極的に利活用し、生徒が興味・関心をもって授業に臨めるように工夫・改善を図る。I C T支援員の活用。
～タブレット、冒険くん、ノートパソコン、デジタル教科書など
- e ライブラリの有効活用（職員研修を通して職員の利用率をあげる）
～授業教材（プリント活用）、家庭学習利用、ドリル学習、調べ学習、入試問題演習、学習記録など多岐にわたる活用をめざす。
- 「ちばのやる気ガイド」（千葉県教育委員会）の活用
～標準学力検査対策にも
- 思考力・表現力の育成⇒書く力を高める作文指導（毎週金曜日朝・全校一斉）
～「よみとき新聞ワークシート」の活用
- 社会的なものの見方・考え方～社会科新聞作成、コンクールへの応募